

第 35 回天文学に関する技術シンポジウム開催にあたって

国立天文台 技術主幹・技術推進室長 高見英樹

今年度で第 35 回を迎える「天文学に関する技術シンポジウム」（以下「技術シンポ」）は、東北大学理学研究科との共催により東北大学青葉山北キャンパスで開催することとなりました。

今年度の技術シンポは、2 つの新しい要素を持っています。

ひとつは、第 5 回目の開催となる「可視赤外線観測装置技術ワークショップ」（以下「可視赤外 WS」）と連続する日程で開催し、合同セッションを設けることです。これは、可視赤外線天文学に関する技術について研究者から学生まで幅広い層の参加により議論している「可視赤外 WS」と、光赤外・電波・太陽等の観測に関わる技術を主として技術系職員の参加により議論している「技術シンポ」との連携により、新たな情報共有を図ろうというものです。

もうひとつは、国立天文台組織内のこととなりますが、2014 年度に技術系職員の一層の技術力向上を図るために新たに組織された「技術推進室」が初めて主導して開催する「技術シンポ」であることです。実際の開催にあたっては、世話人が中心となって運営しますので従来と変わりませんが、集録を WEB 掲載とするなど、新しい試みを始めるとしています。

「可視赤外 WS」と合同の「次世代望遠鏡」セッションでは、現在、日本で取り組まれている国内外の主要なプロジェクトが取り上げられており、合同セッションならではのプログラムとなりました。プログラムをアレンジしていただいた世話人の皆さんに感謝いたします。

本シンポジウムは 30 回以上にも及ぶ長い積み重ねがあり、「天文学に関する」という独自の技術分野を対象に開催されている点で、ユニークな存在となっています。今回も各機関で行われている技術分野の開発・運用・保守等が報告されます。議論を深めるために、本シンポジウムで定着した方式である、口頭発表の方にも同じ内容でのポスター発表をしていただくことを、今回もお願いしました。

本シンポジウムがきっかけとなり、天文学研究に関わる多数の機関の研究者・技術者の情報交換が活発となることを期待します。